

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成25年8月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成25年7月分(平成25年7月1日～平成25年8月4日:5週間分)

| No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 | No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 |
|----|---------------|-------|------|--------|------|----|-----------|-------|------|--------|------|
| 1 | インフルエンザ | 0 | 0.00 | 0.05 | | 10 | 百日咳 | 8 | 0.02 | 0.07 | |
| 2 | RSウイルス感染症 | 112 | 0.31 | 0.09 | ↑ | 11 | ヘルパンギーナ | 416 | 1.16 | 2.36 | ↗ |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 395 | 1.10 | 0.60 | ↘ | 12 | 流行性耳下腺炎 | 103 | 0.29 | 0.76 | ↘ |
| 4 | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 480 | 1.34 | 0.96 | ↘ | 13 | 急性出血性結膜炎 | 0 | 0.00 | 0.02 | |
| 5 | 感染性胃腸炎 | 1,443 | 4.02 | 3.33 | ↘ | 14 | 流行性角結膜炎 | 99 | 1.04 | 1.16 | ↘ |
| 6 | 水痘 | 221 | 0.62 | 1.01 | ↘ | 15 | 細菌性髄膜炎 | 5 | 0.05 | 0.02 | |
| 7 | 手足口病 | 3,568 | 9.94 | 2.86 | ↑ | 16 | 無菌性髄膜炎 | 17 | 0.16 | 0.03 | ↑ |
| 8 | 伝染性紅斑 | 4 | 0.01 | 0.29 | | 17 | マイコプラズマ肺炎 | 12 | 0.11 | 0.27 | |
| 9 | 突発性発しん | 196 | 0.55 | 0.68 | ↘ | 18 | クラミジア肺炎 | 4 | 0.04 | 0.00 | |

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成25年7月分(7月1日～7月31日)

| No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 | No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 |
|----|---------------|-------|------|--------|------|----|-------------------|-------|------|--------|------|
| 19 | 性器クラミジア感染症 | 54 | 2.35 | 2.45 | ↘ | 23 | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 118 | 5.62 | 6.12 | ↗ |
| 20 | 性器ヘルペスウイルス感染症 | 21 | 0.91 | 0.79 | ↘ | 24 | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 19 | 0.90 | 0.95 | ↗ |
| 21 | 尖圭コンジローマ | 22 | 0.96 | 0.61 | → | 25 | 薬剤耐性アシネトバクター感染症 | 1 | 0.05 | — | |
| 22 | 淋菌感染症 | 24 | 1.04 | 1.26 | → | 26 | 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 4 | 0.19 | 0.15 | |

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

●急増疾患 RSウイルス感染症(30件 → 112件)
手足口病(1,203件 → 3,568件)
無菌性髄膜炎(6件 → 17件)

●急減疾患 なし

発生記号(前月と比較)

| | | | |
|-----|---|---|--------------|
| 急増減 | ↑ | ↓ | 1:2以上の増減 |
| 増減 | ↗ | ↘ | 1:1.5～2の増減 |
| 微増減 | ↗ | ↘ | 1:1.1～1.5の増減 |
| 横ばい | → | | ほとんど増減なし |

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

| | 内科定点 | 小児科定点 | 眼科定点 | STD定点 | 基幹定点 | 合計 |
|---------|------|-------|--------|-------|--------------|-----|
| 対象疾病No. | 1 | 1～12 | 13, 14 | 19～22 | 15～18, 23～26 | |
| 定点数 | 43 | 72 | 19 | 23 | 21 | 178 |

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

| 類別 | 報告数 | 疾患名(管轄保健所) |
|------|-----|---|
| 一類 | 0 | 発生なし |
| 二類 | 51 | 結核(51)〔西部保健所(7), 西部東保健所(5), 東部保健所(4), 北部保健所(1), 広島市保健所(21), 呉市保健所(7), 福山市保健所(6)〕 |
| 三類 | 11 | 細菌性赤痢(1)〔西部〕, 腸管出血性大腸菌感染症(10)〔O157(5)〔呉市(1), 福山市(4)], O26(3)〔西部(2), 広島市(1)], O103(1)〔福山市〕, O血清型別;不明(1)〔広島市〕〕 |
| 四類 | 5 | A型肝炎(1)〔広島市保健所〕, レジオネラ症(4)〔西部保健所(1), 広島市保健所(1), 福山市保健所(2)〕 |
| 五類全数 | 19 | 風しん(5)〔東部保健所(1), 広島市保健所(2), 呉市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, アメーバー赤痢(2), 〔広島市保健所(1), 呉市保健所(1)〕, ウイルス性肝炎(B型)(3)〔広島市保健所〕, 後天性免疫不全症候群(2)〔西部保健所(1), 広島市保健所(1)〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔福山市保健所〕, 急性脳炎(3)〔福山市保健所〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(1)〔広島市保健所〕, 梅毒(2)〔広島市〕 |

3 一般情報

(1) RSウイルス感染症について(乳児の感染は要注意!!)

乳幼児を中心に例年冬季(11月から3月)に流行するRSウイルス感染症の報告が7月中旬から全国で増えています(5週程度前倒しの状況)。

広島県感染症発生動向調査による定点医療機関からの患者報告数では, 6月30件から7月112件と大幅に増えています。RSウイルス感染症は, かぜに似た症状で多くの場合軽症で治りますが, 感染力が強く, 1歳未満の乳幼児の場合や先天性疾患, 慢性肺疾患など基礎疾患を持つ小児の場合は重症化の恐れがあるため, 今後の動向に注意してください。

●症状

・RSウイルス(Respiratory Syncytial Virus)を原因とする感染症で, 2~7日(通常4~5日)の潜伏期の後, 発熱, 咳, 鼻水, 咽頭炎, 頭痛, 元気ないなど, かぜに似た症状です。感染が下気道, 特に, 細気管支に及んだ場合は痰が増加し, 呼吸性喘息, 多呼吸などの症状が現れます。

●感染経路

・主に, 感染者の気道分泌物に汚染された手指やおもちゃなどの物品を介した接触感染です。
・また, 咳で生じた飛沫を介して感染します。

●予防方法等

・手洗いの徹底(石けん, 消毒用アルコール及び塩素系消毒薬が有効)や, うがいの励行が予防の基本となります。
・咳やくしゃみをするときは, 口と鼻をティッシュペーパー等で覆う, マスクを付けるなど, 周りの方への感染防止に心がけてください。
・治療は, 咳止め薬や去痰薬の投与, 適切な水分補給などの対処療法が主体となります。
・かぜの症状が現れたら, 症状では他の感染症と区別がつきにくいので, 早めに医師の診察を受けましょう!!

※なお, 詳しい情報は, こちらのホームページをご覧ください。

○ 厚生労働省ホームページ「RSウイルスに関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html

(2) 後天性免疫不全症候群について(HIV抗体検査を受けましょう!!)

近年, 症状が出て始めて気付く「いきなりエイズ」が増えています!!

広島県における1月から7月末までのHIV感染者及びエイズ患者の累計数が, すでに22件となり, 平成21年の31件を超える勢いで増加しています。

HIV感染が早期に見つかり, 自分自身, パートナーにとってメリットが多いので, 積極的にHIV抗体検査を受けましょう!!

●症状

・HIV(Humann Immunodeficiency Virus ヒト免疫不全ウイルス)に感染すると, 一般的に, 2~8週間の急性感染期のうち, 数年から10年以上にわたり外見では感染が分からない無症状期(無症候性キャリア)を経て, 次第に免疫力が低下し, 発熱, 下痢, 寝汗, 倦怠感, リンパ節の腫れ, 体重の減少などの症状を呈するエイズ期の段階に入ります。

・その後, 更に進行すると, 日和見感染症やカポジ肉腫などの腫瘍が現れ, エイズと診断されます。

●感染経路

・主な感染経路は, ①性行為(同性間を含む), ②血液感染, ③母子感染です。

・HIVは, 感染力が弱く, 性行為以外では日常生活の中で感染する心配はありません。

●予防方法等(HIV感染・エイズ発症は予防できます!!)

・他の性感染症と同様, 予防するには, コンドームを正しく使用しましょう!!

・近年は, HIV感染が早く見つかれば治療を継続することで, 進行をコントロールすることができる時代です!!

・検査以外で感染の有無を知ることはできません。心当たりがある場合は保健所等で検査を受けましょう!!

※なお, 詳しい情報は, こちらのホームページをご覧ください。

○ 広島県ホームページ「エイズ情報」

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/hidsc-hiv.html>